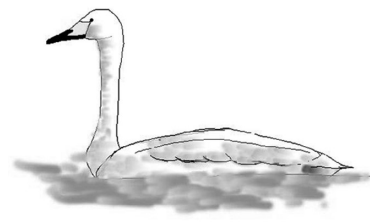


厚岸水鳥観察館だより
べかんべうし
別寒辺牛

●問い合わせ／水鳥観察館 ☎ 52-5988



藻場の生き物観察

少 しい話になりますが、水鳥観察館の厚岸湖・別寒辺牛湿原『やっこクラブ』の昨年10月の行事は、北海道大学の厚岸臨海実験所の協力のもと、海岸近くの藻場の生き物観察会でした。

▼厚岸臨海実験所のうみあいさ号



ウズマキゴカイ、ハマトビムシ、ウスコケムシ、イソバテング、イソコツブムシ、クサイロモエビ、ミツクリエビ、オオワレカラ、シモフリカジカ、チャイロハマキビガイ、エビジャコ、その他無数のふだん目にする事のない生き物が、オオアマモ、アマモの生えている藻場でたくさん観察できました。

▼ハッカクの仲間



厚岸湾や厚岸湖の生き物の大半は、このように名も知られぬまま、でも活発に生命活動を営んでいます。その中には、正式な種名ホツカイエビ（商品名ホツカイシマエビ）などの産業種も含まれています。

水 中の生活の場である藻場は、陸上の生き物と同じく多数の生き物がつながってバランスを

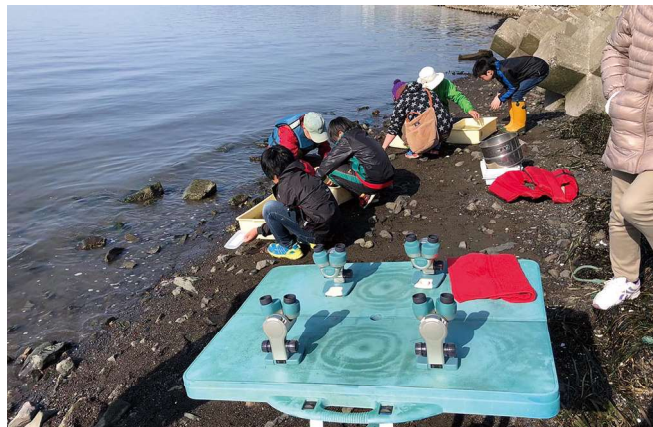
保っていて、それは陸上の生き物ともつながっています。どれかが異常に多くなっても、逆にどれかが絶滅しても、そのバランスは人間の見える、見えなにかかわらず崩れていきます。それらが私たちの生活に影響が出始めたら、既に元に戻せないほどの生き物のつながり、つまり生態系が崩れてしまっています。

▼藻場にはどこにでもいるオホーツクヘラムシ



や っこクラブは対象学年の中心が小学生なので、あまり難しい説明をせず、まずは色々な生き物が生きていることを知ってもらうことが重要な目的の一つになっていますが、今年度は、9月の山歩きと、この藻場観察の2つの事業で終わってしまいました。

▼回収した生き物を観察中



新型コロナウイルスが早く収束し、影響がどんどん小さくなっていくことを祈るばかりです。